

安全な暮らしを水と共に

沖繩県

宜野湾市立真志喜中学校 二年 石川 愛留

水を守り続けるとはどんなことだろう。皆さん「PFAS（ピーファス）」という言葉聞いたことがありますか。PFASとは、人工的に作られた有機フッ素化合物です。水や油をはじく効果があり、熱にも強く半導体や包装紙、防水服など私たちの身近な製品に使われています。

私がPFASを知るきっかけになったのは、周りの大人から、水道水を飲んではいけないと注意を受けたからです。なぜ、今まで飲んでいた水道水を飲んではいけないのでしょうか。

PFASの一部は分解されにくく、国際がん研究機関は、PFASを発がん性の恐れがある物質に分類しています。腎臓がんや乳がん、赤ちゃんの体重減少などとの関連が指摘されています。

そのPFASが、米軍基地周辺の河川や北谷浄水場の飲料水などから高濃度に検出されていました。

私が住んでいる宜野湾市には、豊富な湧き水があります。その湧き水を生かして、田芋などの農作物の栽培や、湧き水を引いた公園が整備中でした。しかし、二〇二〇年七月にPFASが一リットル当たり二百十ナノグラム検出されました。ちなみに、日本の目標値は五十ナノグラムで、約四倍の濃度が検出されたこととなります。人に害を与える恐れがあるPFASは、公園に流れている水が止められたり、学校の飲料を控えるなど、さまざまな制限をされることがありました。そのため、体育の授業後、冷水機の水を水筒に補充できず困ったことがあります。

基地周辺の土壌から検出された、PFASの値が高いことから、周辺住民の血中濃度調査が公表されました。調査の結果として、全国調査の平均値よりも、血中濃度が上回りました。キャンプフォスター（北谷にある基地）近辺の北谷町は、十二・二ナノグラム、普天間基地のある宜野湾市は十一ナノグラム、そして基地のない大宜味村は五・八ナノグラムです。また、普段水道水を飲んでない人より飲んできた人のPFAS

血中濃度が高い傾向にあるようです。

人に害を与える恐れのあるPFASを、人体に取り込まないためにはどうしたらよいのでしょうか。簡単にできることは、水道水を飲むのを控えることです。控えるといっても、飲料水の他にも、生活するには、ご飯を炊いたり、野菜を洗ったり、口をゆすいだり、水道水はきつてもきりはなせません。

昨今の新聞に、以前整備中だった公園の湧き水に、除去装置を設置し、安全な水が流れるようになったという記事が掲載されていました。総事業費は約一億円で、防衛省が七十五パーセント補助したとのこと。そのことからわかるように、今回市民団体がいち早く行動し、自ら土壌調査をし、市へ働きかけ、国へ働きかけ、防衛省の補助を勝ち取りました。地域住民が関心を持ち、市や国へ定期的な調査をしてもらうことで、安全な水が供給されると思います。

蛇口をひねれば、当たり前前に飲めた水。その水が「安全ではない」と聞かされた時、私たちは、どのように暮らしていけば良いのでしょうか。根本的な原因を排除しなければ、元の生活を送ることはできません。生きている現在、将来の私の子供、孫、未来のために安全な水を、百年後も守ることが、未来へのプレゼントだと思います。そのためには、私たちも、市民団体の人たちのように、自ら行動したり、目の前におきている問題からでも関心を持つことが必要だと思います。